落合つた水がブールヂ・アブドラ Bourdj-i-Abdollah と云ふ名で知られた四角稜堡に類するもの、西北突角に打當つてゐる。此の角面堡は高い城壁を繞らし、東西二百米突南北百米突で、古代の三都を示すものと思はれるが、其の後或る時代になつて宮殿城砦共に南方五百米突の地に移されたものである。此の移轉地も矢張り古い地域と同じ方向にむいてゐるが、面積はそれよりも廣く縱百五十米突横幅四百五十米突の矩形になつてゐる。此の新しい矩形の都は其の東南方を圍む燒かざる大型煉瓦の厚い壁と其の他の部分に連なる急峻な高地の緣とで、古代の王都に結び付けられてゐる(第二圖中のスケッチ圖參照)。そこで兩者の中間に一つの圍廓が出來た譯であるが、此の中は法師も言つた通り物資の頗る豐富な市場となり併て有力な市民の住宅地ともなつてゐる。是等の壘壁を總括すると、其の周圍は二千五百米突に達するもので、其の廓外の地域は細民の住居となると同時に墓地にもなり、埋葬した甕などが充滿して居る。又、河流を壓する絕壁の岸に沿うては、四角又は圓形の特徴ある丘上に伽藍や塔などがあつて往來の人の目を喜ばせてゐる。